

『小野寺ずるのド腐れ漫画帝国』 『小野寺ずるの徒然なる糞2020』研究結果 2020年研究報告と2021年のLABOについて

コロナ 渦のためLABOとしての舞台のお研究は保留となってしまいましたが、週1更新としてお漫画『ド腐れ漫画帝国』、おポエム『徒然なる糞2020』を1年間継続してお研究&発表することができました。ご覧いただいた皆様、ありがとうございます。

【研究結果】

【お漫画】・・・目指している「ロックオリティでクリティカルヒット」は難しく、下心で絵の手数が増えたりしてしまいました。しかし手数を増やすことにより生まれる面白さもあり「これは必要な線か、それとも褒められたい線か」の見極めを正しくするにはまだまだ時間を要すると感じます。

それでも1年続けて気づいたことは「 unnecessary デティールを詰めていつまでも垢抜けない」というスタイルが自身の漫画には合っていると感じました。また、下ネタを禁じられるという前代未聞の事態にも陥り、それで自分は何を面白いと思うのか、という問いにも直面しました。それは「空虚故のペース」と言い切れませんが、「空虚」に描かれたら傷つく人もいないかもしれないという恐れも生まれました。だから描く時は「誰も彼も平等に空虚」という強い意志を持たなければならないのではないかと思いました。良くなりたいのに矛盾していますが「どうせ描いてもゴミ」の諦観も効果がありそうです。その上でゴミを愛で、さもしいと自覚し続ける気持ちを忘れない。

【おポエム】・・・誰かに読まれると思わず自分が読んでじっくりくるものを。と思って書き続けました。正直であろう、無理をした言葉の転換はしない、頭いいと思われたいと思わないようにする。良い変化としては覇気は感じないけれど見栄をはっていない回が増えてきたように感じます。

見返りもないのに、書きたくなくても義務として書く。それは豊かな時間でした。生まれれば終点見えずとも着地はする、続けようと思えば続くということに癒されました。何かを目指すなら足りぬだらけでも、書けば書くほど自分には何もないな、と清々しい気持ち。それは不思議な積み重ねでした。しかし、1年続けてきて自分の言葉に少し飽きてきた部分があるのも正直で。マンネリってやつでしようか、読み返すと新鮮なのに最中が、という。選択肢が足りない。頭の中がカラカラに渴いでいるのかもしれませんが。あとは単純にものを知らなくて、頭が悪いのでしょうか。1年続けて清々しい気持ちと変化したい気持ちになりました。でも、ほっとくこともいいのかもしれない。

【2021年の研究】

2020年、小出しに小出しに週2回個人のお研究+お仕事でずっとメ切メ切とやることに追い立てられていたように感じます。何かをじっくり考えたり煮詰める時間がコロナ渦だというのに不足していたと感じます。脳が渴いて苦しいような感覚です。

(忙しい人みたいな書き方をしていますが、実際は自分で自分の首しめただけです。

別に誰にも求められてないのに・・・)

2020年は継続してコンスタントなお研究をしましたので

2021年は何か一個とかで良いからじっくり作りたい。

と今は感じています。

発表の回数は減ると思いますが、何かをじっくり・・・。

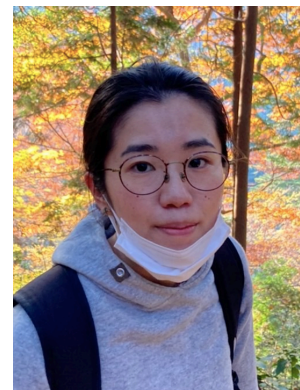
実は秋に長めの文章を完成させました。まだまだ修正は必要ですが、そういうものをどうにか皆様に何らかの形でお発表できたら、と思っています。

肅々と。肅々と。ニヤニヤと。

以上を報告とさせていただきます。

一年間ありがとうございました。

今後もZURULABOをよろしく願いいたします。



ZURULABO 所長・小野寺ずる